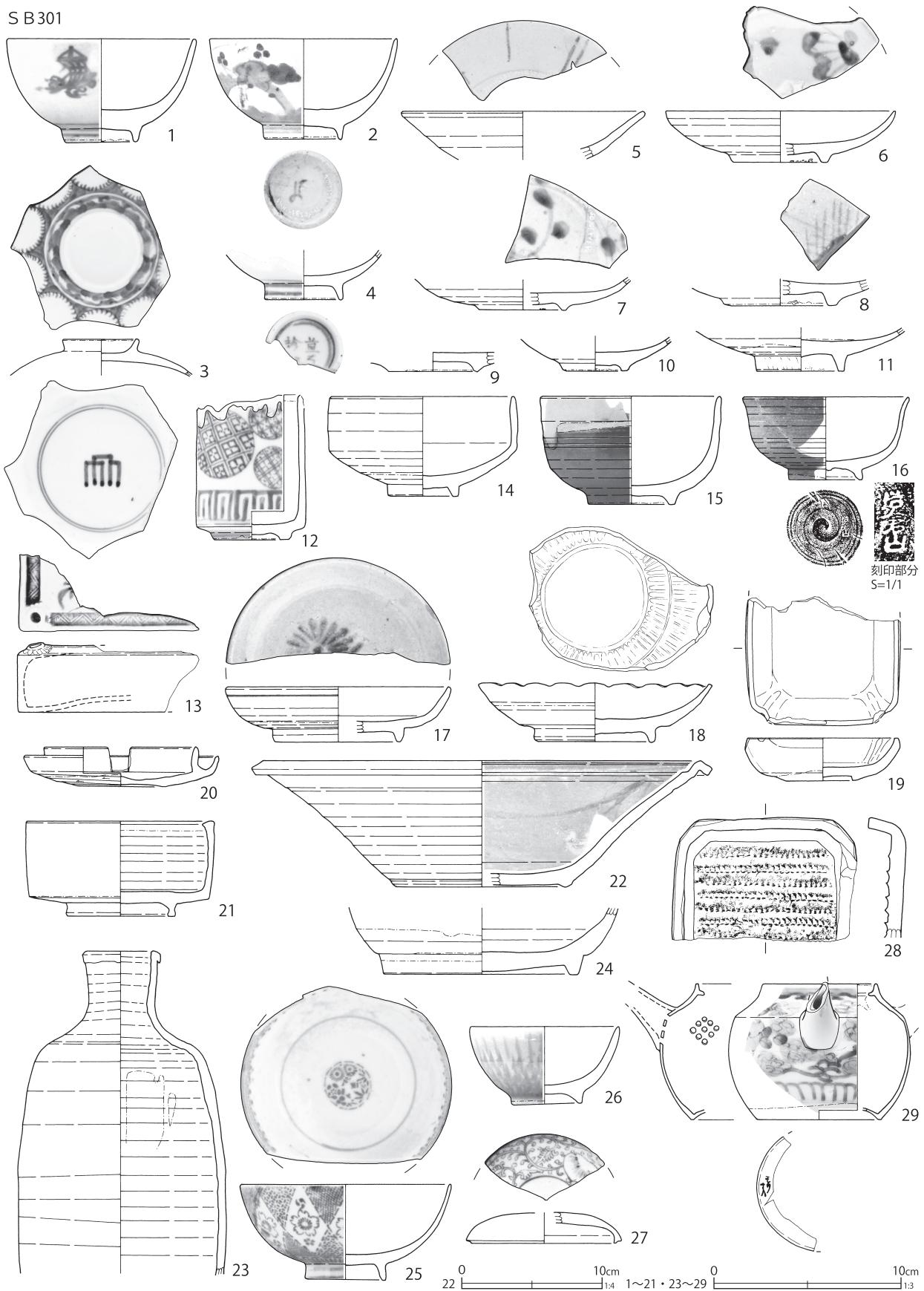
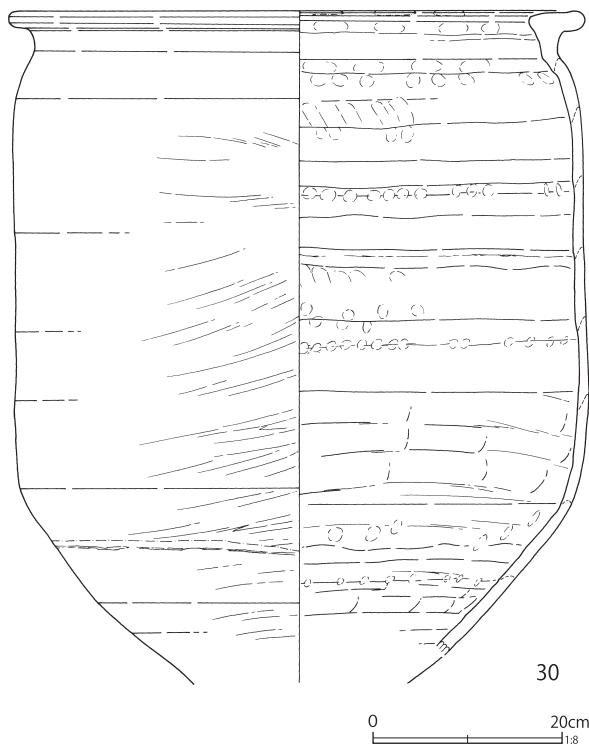


S B301



第39図 建物跡出土遺物 (1)



第40図 建物跡出土遺物（2）

性も考慮される。以上より、19世紀半ば頃までに構築され、19世紀末頃に解体された建物跡と推定される。

## （2）基礎状遺構

建物の基礎の一部を構成する地業跡と考えられるが、周囲の遺構との関連が把握し難かった遺構が10箇所検出された。これらを基礎状遺構として第3表に規模等をまとめた。基礎状遺構の一部は、他の建物跡に付帯する可能性も考えられるため、可能な限り建物跡の遺構図と併せて図示した。

### 第303・304号基礎状遺構（第24・25図）

C 6-G 4・5グリッドから検出された不整円形の基礎状遺構で、瓦細片を充填する。位置から第307b号建物跡の一部とも考えられるが、建物基礎と深度が大きく異なることから、調査時の所見に従い基礎状遺構としておく。

### 第305・306号基礎状遺構（第26図）

C 6-H 3・4グリッド付近から検出された。第305号基礎状遺構は長方形で西側が調査区外に延びる。第306号基礎状遺構は隅丸方形である。土層は、小礫層としまりのある土の互層で、似た地業を行っている。両者が組み合い建物跡になる可能性があるが、第306・308号建物跡との関連が不明であり、別個の基礎状遺構としておく。

### 第307・308・309号基礎状遺構（第22図）

C 6-F 5、G 3・4グリッド付近から検出された、小穴状の遺構である。第307a号建物跡南側に近接、重複する。覆土はいずれも小石や瓦細片を含む土とそれを含まない土を互層状に充填する。

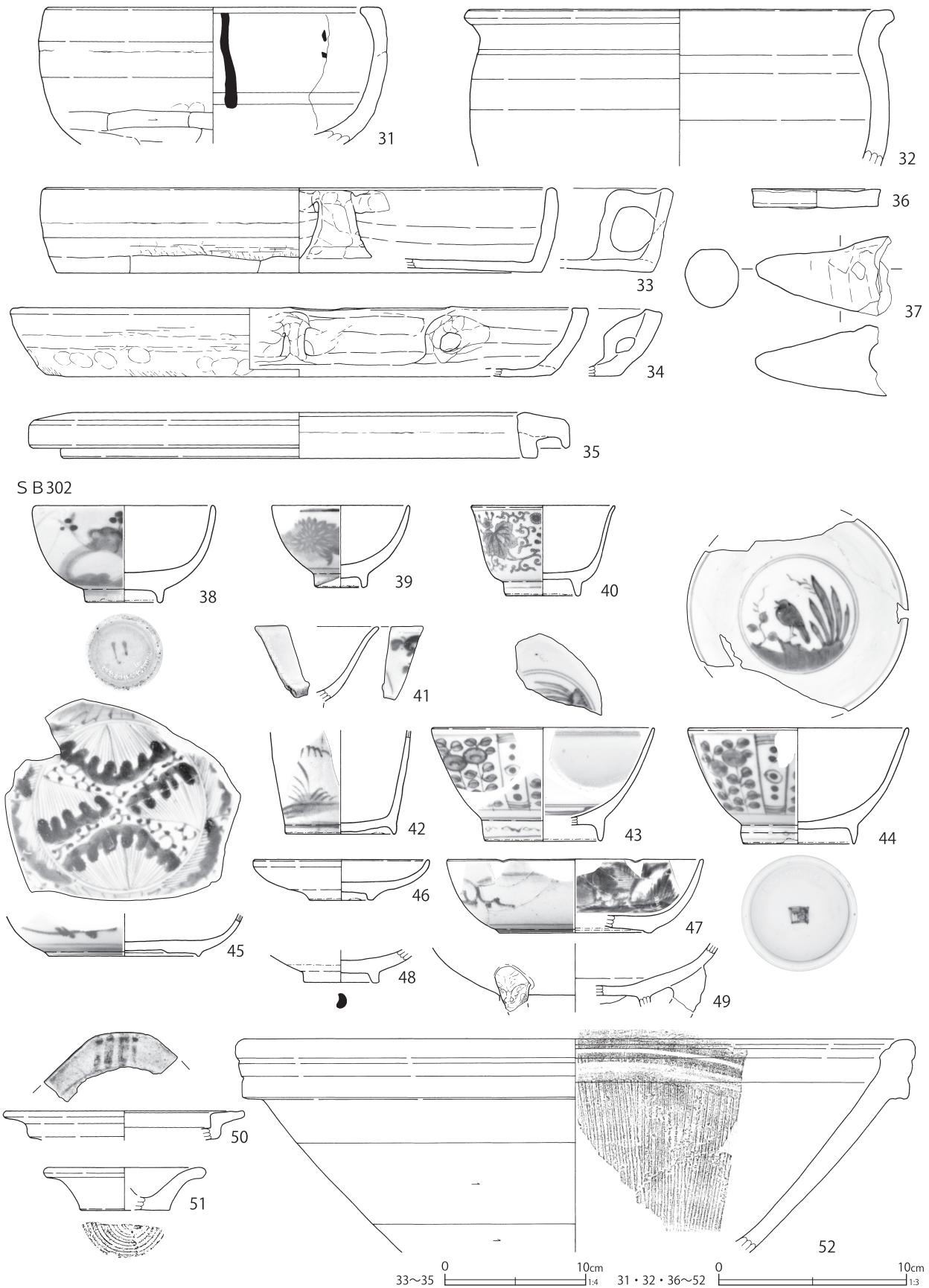
これら3基が東西に並ぶ可能性があるが、若干位置が乱れて直線上には並ばない。重複関係から第307a号建物跡に先行する建物跡の一部とも考えられる。

### 第311号基礎状遺構（第26図）

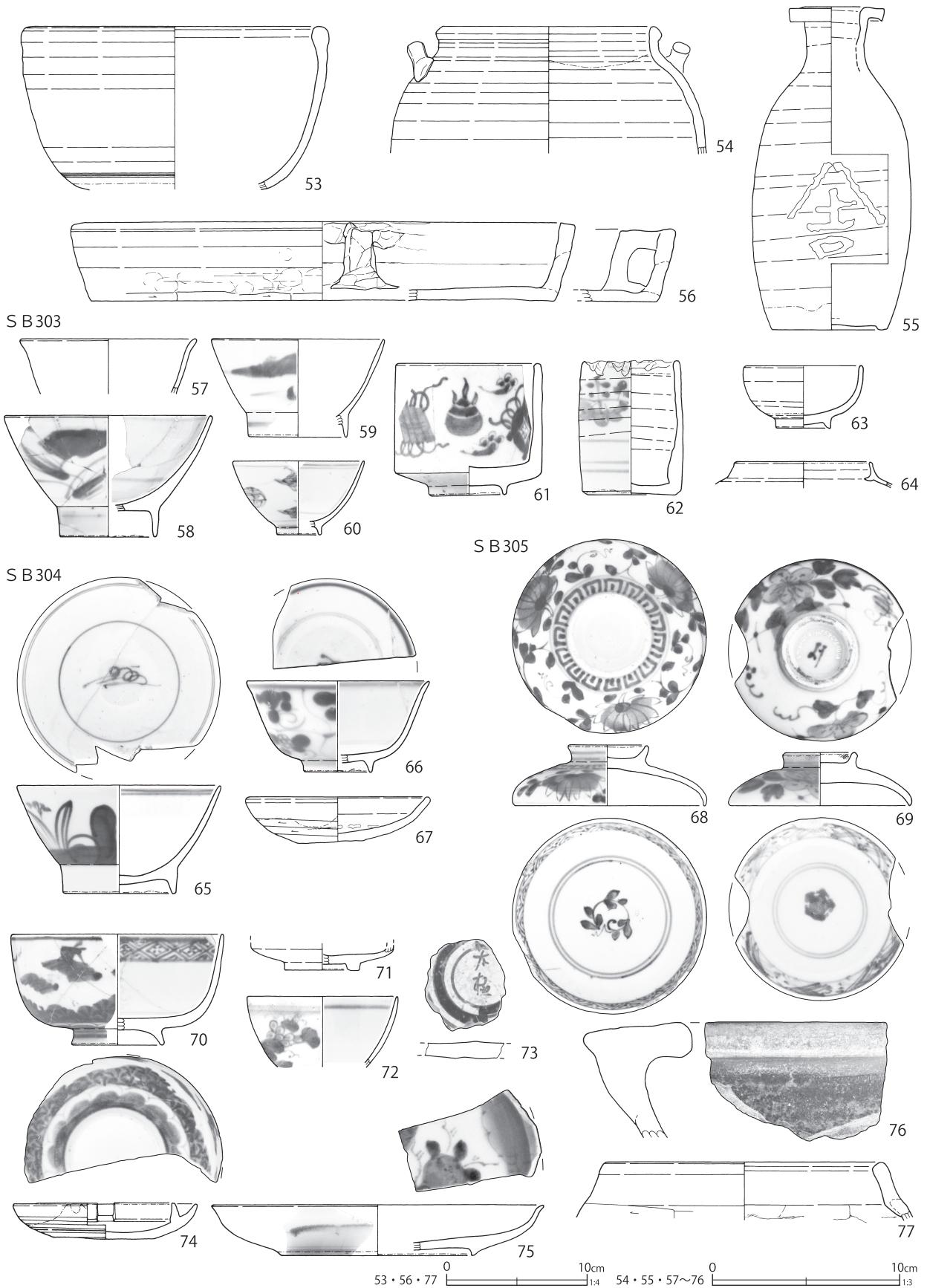
C 6-H 4グリッドから検出された遺構で、平面形は不整長方形である。第308号建物跡の南側基礎に平行して検出された。上層には瓦が充填されていた。これを除去すると、下面の一部が方形に深く掘り込まれており、底面に枕木状の丸太が3本敷かれていた。

第3表 第一面基礎状遺構一覧表 単位：m

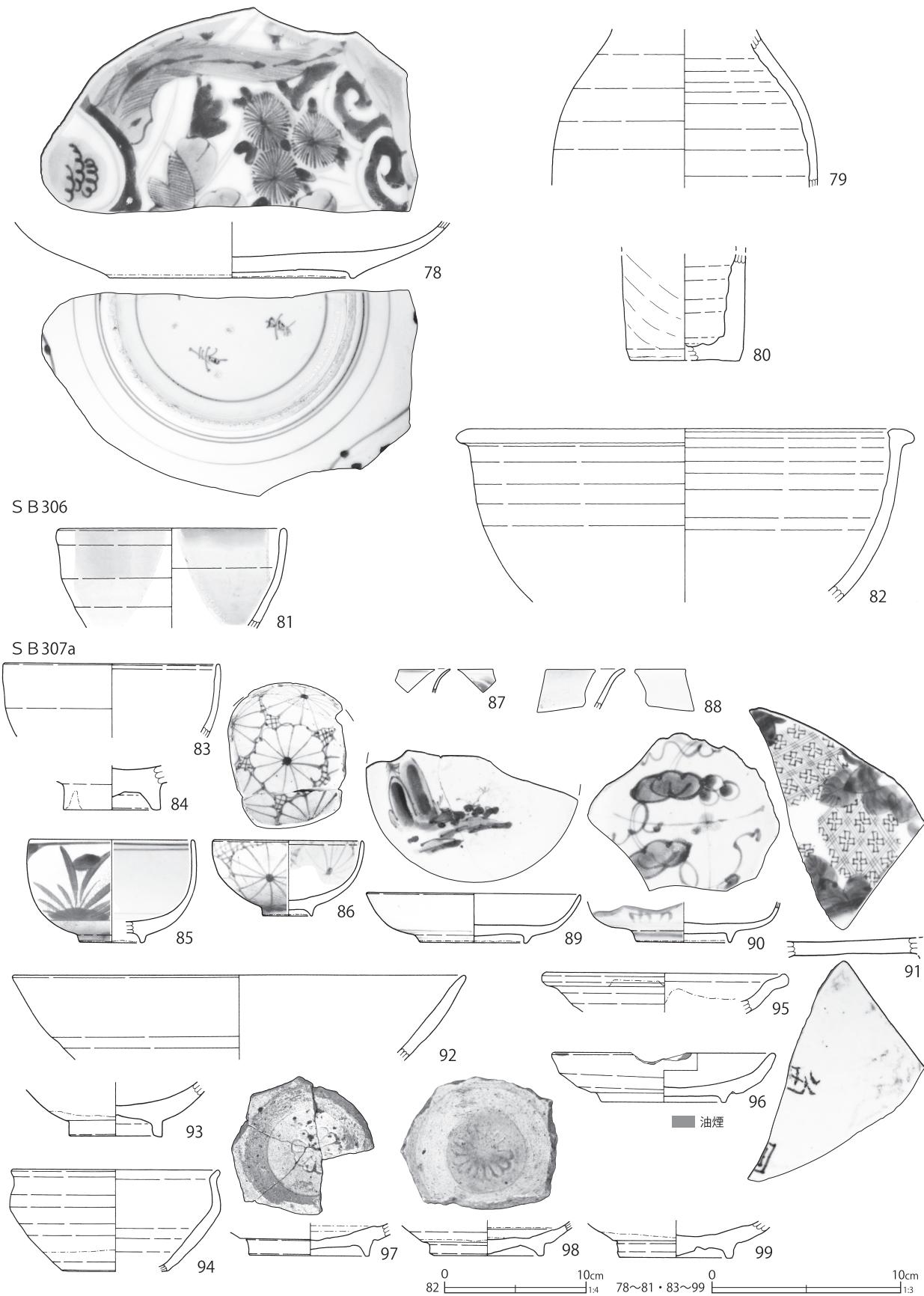
番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	備考
303	C6-G5	不整円形	(1.11)	0.98	0.22	瓦主体に充填 SB307bの一部の可能性あり
304	C6-G4/5	不整円形	1.11	0.70	0.11	瓦主体に充填 SB307bの一部の可能性あり
305	C6-H3/4	長方形	(2.19)	0.82	0.87	小礫を充填 基礎306と建物を構成する可能性あり
306	C6-G3/4, H3/4	隅丸方形	1.31	1.10	0.67	小礫を充填 基礎305と建物を構成する可能性あり
307	C6-G3	円形	0.67	0.56	0.40	基礎307～309は近接、土層と形態類似
308	C6-G3	円形	0.80	0.73	0.39	基礎307～309は近接、土層と形態類似
309	C6-F4, G4	円形	0.79	0.73	0.22	基礎307～309は近接、土層と形態類似
311	C6-H4	不整長方形	4.34	1.42	0.62	上面に瓦を充填
316	C6-G4	円形	0.69	0.69	0.12	礫充填 SK335とともに図示（第119図）位置は第24図にも示した
604	D6-B9	楕円形	1.14	0.90	0.47	瓦多く含む SB602直下の検出



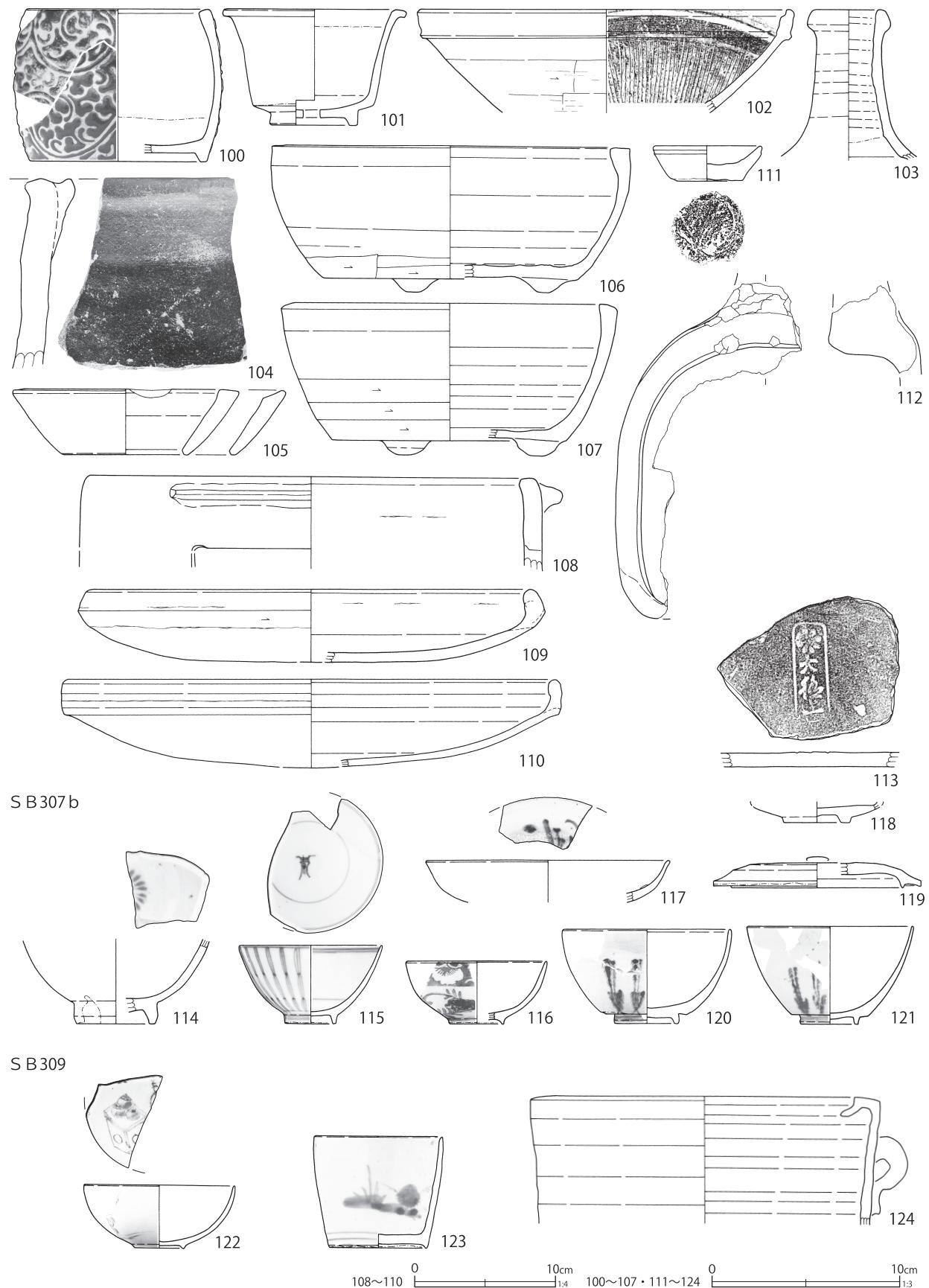
第41図 建物跡出土遺物 (3)



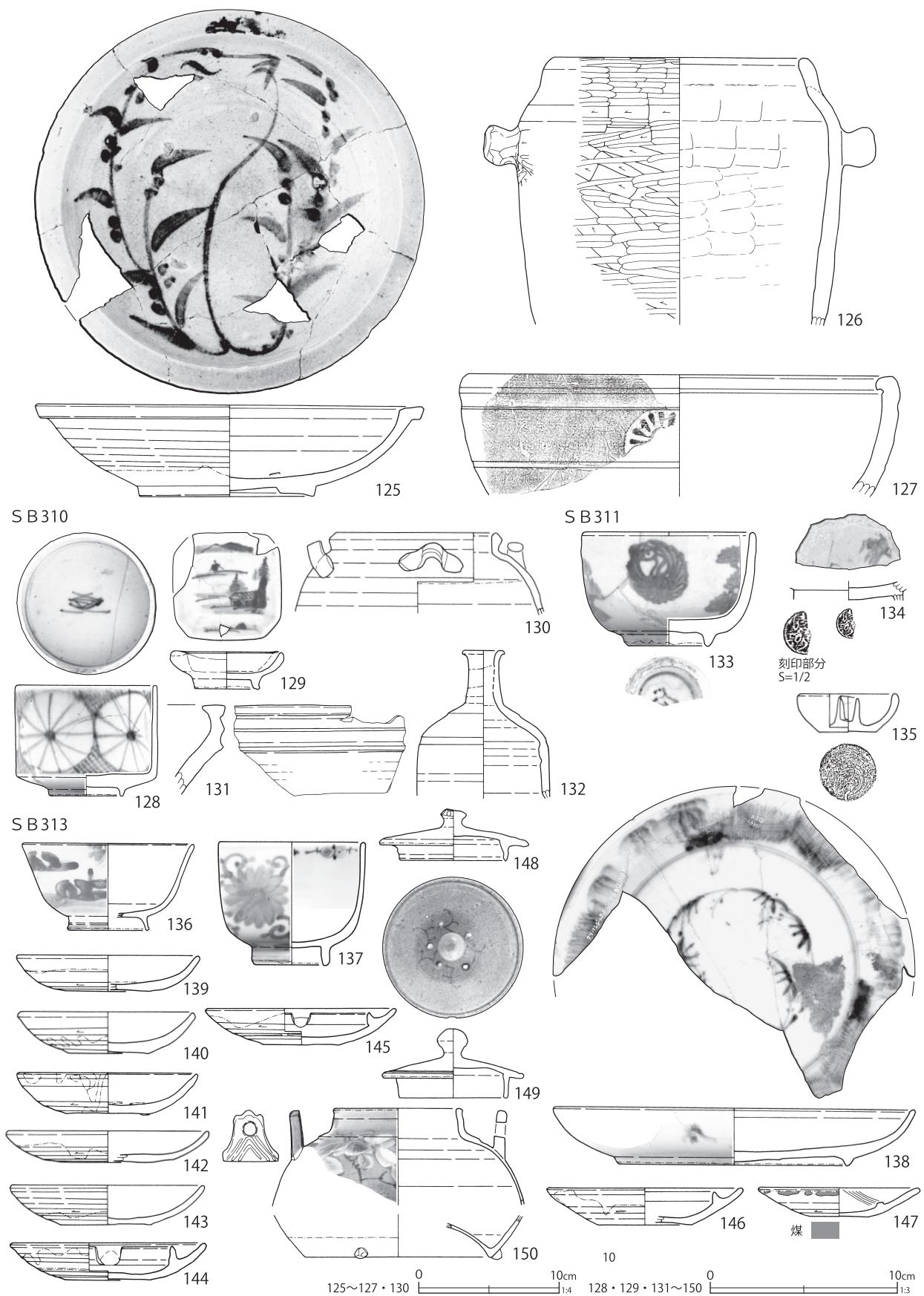
第42図 建物跡出土遺物 (4)



第43図 建物跡出土遺物 (5)



第44図 建物跡出土遺物 (6)



第45図 建物跡出土遺物 (7)